



文化財愛護
シンボルマーク

北栄町文化財調査報告書第1集

平成17年度

町内遺跡発掘調査報告書

2006.3

鳥取県東伯郡

北栄町教育委員会

序 文

この報告書は国・県の補助を受け、平成17年度に北栄町教育委員会が行った埋蔵文化財発掘調査の報告であります。

北栄町は平成17年10月に大栄町、北条町が合併した新しい町であります。本町には埋蔵文化財が多数存在し、多くの開発事業が行われるなか、埋蔵文化財保護の立場から開発事業と埋蔵文化財保護との調整を進めており、地元関係者の方々のご理解、ご協力をもとに一層の努力をしておるところであります。

今年度は江戸時代に建設された六尾反射炉跡付近で試掘調査・踏査を行いました。残念ながら反射炉に関係する遺構を検出できませんでしたが、今後の埋蔵文化財保護の取扱いに関連する貴重なデータを得ることができました。

今回の調査にあたり、ご協力して頂いた関係者各位、とりわけ現場で作業に従事して頂いた皆さん、ご指導頂いた鳥取県教育委員会文化課ならびに埋蔵文化財センターの方々に対し、深く感謝と敬意を表すものであります。

平成18年3月

北栄町教育委員会

教育長 山根和夫

例 言

1. 本報告書は平成17年度に北栄町（旧大栄町）教育委員会が国・県の補助を受けておこなった埋蔵文化財調査の報告書である。
調査ではトレンチを設定・掘削をおこない、遺構・遺物の有無・分布状況の確認作業をおこなった。
2. 調査地は鳥取県東伯郡北栄町六尾である。
3. 本書の執筆・編集は池田がおこなった。
4. 土色、土質の注記は標準土色帳（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を利用した。
5. 本書に掲載した実測図の原図は、調査参加者全員の協力のもとに作成され、製図、及び浄書は池田がおこなった。
6. 地形図は国土地理院発行 1/25,000「倉吉」を複製、加筆した。
7. 図面・出土遺物・写真等は、北栄町教育委員会に保管している。
8. 発掘調査に当たり、以下の方の指導・助言をいただいた。記して感謝の意を表します。

原田雅弘 中山寧人 濱田竜彦（鳥取県教育委員会）
松井 潔（鳥取県埋蔵文化財センター）

調査体制

調査団長	山根和夫（北栄町教育委員会教育長）
調査指導	鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター
調査員	池田 武（北栄町教育委員会生涯学習課）
事務局	坂田 優（同 課長） 池口美佐子（同 課長補佐） 前田真理子（同 文化振興係長）
調査協力	遠藤岑生 遠藤義則 大西吉助 阪本照夫 浜本有子 松村幸寛

（五十音順）

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
1. 調査に至る経緯	1
2. 位置と環境	1
3. 調査の概要	4
報告書抄録	8
写真図版	10

図 版 目 次

第1図 周辺の地形と遺跡分布	2	第4図 県道地区 I Tr. 平・断面図	7
第2図 トレンチ位置図	5		
第3図 山陰本線地区 2 Tr. 4 Tr. 県道地区 II Tr. 平・断面図	6	第5図 県道地区 I Tr. 出土遺物実測図	7

挿 表 目 次

トレンチ一覧表	7
---------	---

写 真 図 版 目 次

図版1 山陰本線地区掘削前状況	2 Tr. 完掘状況
県道地区 I Tr. 機械掘削風景	完掘状況
図版2 県道地区 II Tr. 掘削前状況	完掘状況
県道地区 I Tr. 出土遺物	

1. 調査に至る経緯

平成16年度において、鳥取県中部総合事務所県土整備局（以下、県土整備局）より由良川改修に伴う県道およびJR山陰本線の線形変更に関して、埋蔵文化財の有無とその取り扱いについての協議が大栄町教育委員会（以下、大栄町教委）にておこなわれた。大栄町教委は現地踏査と遺跡地図等による確認作業をおこない、工事予定地が由良遺跡・六尾反射炉跡に隣接し、何らかの遺構が存在する可能性があることから、試掘調査を行って確認する必要があることを回答した。これを受けて両者は協議を重ね、平成17年度に試掘調査をおこなうこととした。

現地での調査は平成17年4月から6月にかけて、整理作業は調査と平行して平成18年3月24日までそれぞれおこなった。なお、平成17年10月1日、大栄町と北条町が合併して北条町となった。今回の調査および整理作業は北条町教育委員会が引き継いでおこなった。

2. 位置と環境

北条町は鳥取県のほぼ中央に位置し、平成17年10月、大栄町と北条町が合併して誕生した町である。西は琴浦町、東は湯梨浜町、南は倉吉市に接し、日本海岸を北端に南西に長い三角形を形成する総面積 57.15km²の町である。

本町は中国地方最高峰の大山（1708m）の北東麓にあたり、町西部では、地表面を火山灰（黒ボク）が覆う緩やかな丘陵が町南西端の奥谷山（314m）より北東方向に幾筋も伸び、一部は海岸線付近にまで至る。東部では蜘蛛ヶ家山・茶白山などの丘陵がつづく。日本海沿岸部には河川からの砂の流入と日本海からの風の影響によって形成された広大な砂丘地（北条砂丘）がひろがっている。いずれもその多くが良好な農地として開墾され、水田の他、丘陵地・台地では野菜・果樹などが、砂丘地では長芋・ブドウなどが栽培され、北条町の農業を支えている。

北条町内には多くの遺跡が確認されている。その多くは丘陵上の平坦地などに展開する集落跡や古墳群であるが、縄文時代、奈良・平安時代の遺跡も確認されている。

縄文時代の遺跡としては、西高尾谷奥遺跡・島遺跡などがある。西高尾谷奥遺跡は西高尾谷の左岸丘陵上に展開する遺跡で、押形紋を施した縄文時代早期のものと見られる土器片が多数出土し、住居跡と見られる浅い皿状の落ち込みや炉跡と見られる石組も検出している。島遺跡は北条川改修に伴って行われた調査では貝塚が確認されており、多くの縄文土器片が出土している。

弥生時代・古墳時代の遺跡は丘陵台地上を中心に数多く点在しており、その多くは竪穴住居を中心とした集落跡で、多くの遺跡が過去の圃場整備に伴って調査されている。由良宿の南方約3kmに位置する後ろ谷・向野遺跡では、竪穴住居の他、掘立柱建物跡が多数確認され、出土した須恵器の杯には墨書が見つかっている。このほか、丘陵上の平坦地の多



1 : 25,000

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 由良台場跡 | 6 別所東屋敷遺跡 | 11 亀谷古墳群 | 16 高鼻2号墳 |
| 2 高江神社遺跡 | 7 由良遺跡 | 12 西穂波古墳群 | 17 原平ノ山遺跡 |
| 3 古社地遺跡 | 8 今地遺跡 | 13 瀬戸古墳群 | 18 曲古墳群 |
| 4 別所経塚遺跡 | 9 干目野遺跡 | 14 島遺跡群 | 19 穂波古墳群 |
| 5 経塚1・2号墳 | 10 後ろ谷遺跡 | 15 大塚山古墳 | A 調査地 |

第1図 周辺の地形と遺跡分布

くの場所で住居跡などの生活痕跡が確認されている。また、砂丘地では砂の下に遺跡や古墳が埋もれていることが知られており、東園・中浜などで住居跡や古墳が確認されている。

古墳も同じく丘陵地で多く確認されている。これらの多くは小規模な前方後円墳を中心に円墳・方墳を築造した古墳群を形成しており、特に土下や曲といった丘陵地の古墳群は県下でも有数の密度と規模を誇る。全体的にみると埋葬施設として箱式石棺を採用するものが多いが、竪穴系横口式石室や横穴式石室なども検出されており、古墳時代前期から後期までの多様な埋葬施設が見つかっている。また、土下古墳群の土下213号墳（通称「やすみ塚」）付近では、首に鹿の子模様をつけた鹿の形象埴輪が出土している。

これより後の時代の遺跡については発掘調査等がほとんど行われておらず、詳細については未知の部分が多いが、延喜式内社である国坂神社や京都石清水八幡宮の別宮である北条八幡宮、高尾八幡宮が存在することから、穀倉地帯として荘園制度の中で中央との結びつきが少なからずあったことがうかがえる。戦国時代には中国地方を席卷した尼子氏、毛利氏、織田氏（豊臣秀吉）の抗争の場となり、由良のスクモ塚や茶白山、北尾（堤）に城が築かれた。その後、江戸時代には因幡・伯耆両国は池田氏の支配下となった。茶白山は池田氏の因幡・伯耆入府の際には、城郭建設の候補地となったといわれている。江戸時代中期、由良は藩倉が置かれたことで宿場町・商業地として大きく発達し、現在の由良宿の原型が作られた。江戸末期になると、由良川河口に台場（砲台）が建設された。これは外国船侵入に備えて日本海沿岸に設置されたものの一つで、農民の動員、農兵隊の組織など、その後の鳥取藩における海岸防衛、台場建設・運営のテストケースとなったといわれている。由良台場は平面形は六角形で、フランス式の築城法を用いて作られたとされ、砂を積み上げた上に赤土・粘土を積み重ね、芝を表面にはっている。この台場には六門（八門とも言われる）の大砲が設置されていたという。明治維新後、大砲は廃棄改鋳されたが、台場はそのままのこされ大正年間に当時の由良町に払い下げられた。現在でも当時の姿をほぼ完全に残しており、日本近世史の資料として昭和63年、国史跡に指定された。

今回の調査地は北栄町六尾に位置し、JR山陰本線の由良川鉄橋のすぐ南側に位置する。調査地の南西側には過去の調査で掘立柱建物群を検出した由良遺跡の存在する丘陵であり、何らかの遺構が存在する可能性があった。また、今回の線形変更に関わる県道が由良宿から倉吉に抜ける旧街道であり、すぐ南側に江戸時代末に建設・稼働していた六尾反射炉の跡地であることから、これらに伴う遺構の存在の可能性もあった。

参考文献	大栄町誌	1980	大栄町
	大栄地域遺跡分布調査報告書Ⅶ	1983	大栄町教委
	曲第1遺跡（曲岡遺跡）発掘調査報告書	1995	北条町教委
	由良遺跡発掘調査報告書	2003	大栄町教委
	とっとり県政だより		

3. 調査の概要

六尾地区

1. 調査地 鳥取県東伯郡北栄町六尾
2. 調査契機 2級河川由良川改修に伴う県道・JR山陰本線付替
3. 調査期間 平成17年4月14日～9月18日
4. 調査方法 試掘トレンチによる発掘調査
5. 調査面積 103㎡
6. 調査概要 調査地は、北栄町役場の東に約300m、JR山陰本線の南側の区域の水田・畑地として利用されていた土地で、南西に由良遺跡があり、遺跡範囲内の水田では槽（そう）、田下駄などの木製品が出土している。

また、調査地の南の丘陵は、江戸時代末に建設された溶鉱炉である六尾反射炉が建設されていた場所であり、調査区域の東端部付近は、現在の県道が倉吉と由良を結ぶ街道であったことから、何らかの遺構が存在することが考えられた。

< JR山陰本線地区（由良遺跡隣接区域）>

由良川改修に伴い、JR山陰本線を南側に移設するため、その移設予定地を掘削し、遺構・遺物の有無と分布状況の確認を行った。

調査は旧水田部分と町営住宅建設時に造成を行った部分の2カ所に大きく分けて、試掘トレンチを設定、掘削を行った。

旧水田部分では、40cm程度の旧耕土である暗褐色のシルトを除去すると、すぐに地山と見られる礫の混じった堅い粘土層が現れ、掘削を終了した。このことから、この部分には遺跡の分布は見られない、と判断した。

< 県道地区（六尾反射炉跡隣接区域）>

I Tr.では、重機で造成土を除去、旧耕土層が見られた段階で、機械掘削を停止、人力掘削に切り替えて下層の確認を行った。旧耕土層の下には、暗灰褐色のシルト層が見られ、洪水によって上流より土が運び込まれ、さらにその部分を開墾するというサイクルが想定された。この暗灰褐色のシルト層から、弥生時代中期の甕が一点出土した。耕作土とみられるこの暗褐色のシルト以下の層では、木の葉と土の互層となっていた。このことから、この場所は、由良川に注ぐ河川の一部で、洪水等で河道が埋没、その後、開墾されたものと考えられる。出土した甕もその際に流入したものと考えられる。

Ⅱ Tr.は六尾反射炉跡に近い部分に試掘トレンチを設定、掘削を行った。

元々、この部分には宅地が造成されていたため、宅地造成土を除去し掘削を行ったところ、造成以前にいれられたコンクリート片や針金を検出した。これらを除去して下層を確認したが、遺構・遺物の分布はなく、この区域にも遺跡の分布はないものと判断した。

今回の調査では、遺構の検出にはならず、遺跡の分布が見られないことを確認できた。古図等を見ると、六尾反射炉と瀬戸街道（現県道）との接続は今回の調査区も含まれるが、本来の入り口はさらに南東に進んだ位置であったといわれており、今回の成果はそれを証明する結果となった。

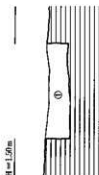


第2図 トレンチ位置図

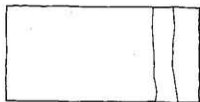
山陰本線地区 2 Tr.

H=1.50m

①7.5Y5/1灰
粗砂混シルト
(旧耕土)



H=1.50m

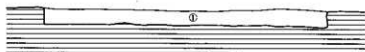


0 S=1/80 4m

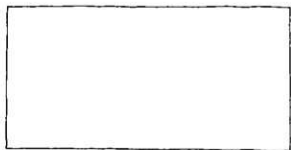
H=1.50m

4 Tr.

①7.5Y5/1灰
粗砂混シルト
(旧耕土)



H=1.50m

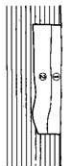


0 S=1/80 4m

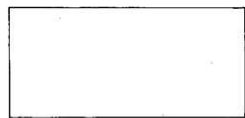
H=3.00m

県道地区 II Tr.

①造成土(真砂)
②10YR4/1礫混シルト
(ガレキ混・
造成土?)



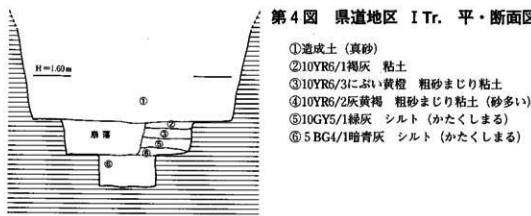
H=3.00m



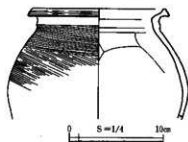
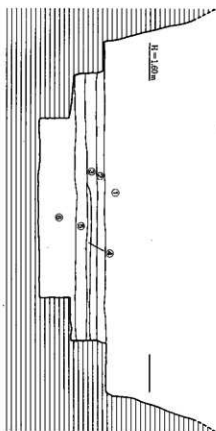
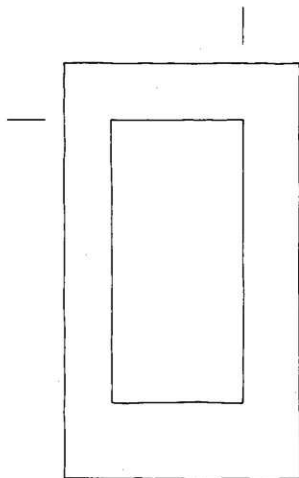
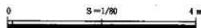
0 S=1/80 4m

第3図
山陰本線地区
2 Tr. 4 Tr.
県道地区 II Tr.
平・断面図

第4図 県道地区 I Tr. 平・断面図



- ①造成土 (真砂)
- ②10YR6/1褐灰 粘土
- ③10YR6/3にぶい黄橙 粗砂まじり粘土
- ④10YR6/2灰黄褐 粗砂まじり粘土 (砂多い)
- ⑤10GY5/1緑灰 シルト (かたくしまる)
- ⑥5BG4/1暗青灰 シルト (かたくしまる)



No.	規模 (m)	出土遺物	No.	規模	出土遺物
1	2×4	無し	I	5×9	甕 (弥生)
2	2×4	無し	II	2×5	無し
3	2×5	無し			
4	3×6	無し			

挿表1 トレンチャー一覧表

第5図 県道地区 I Tr. 出土遺物実測図

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい17ねんどちょうないいせきはくつちょうさほうこくしよ							
書名	平成17年度町内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	北栄町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編著者名	池田 武							
編集機関	北栄町教育委員会							
所在地	689-2111 鳥取県東伯郡北栄町土下112 tel 0858(36)5571 fax 0858(36)4595							
発行年月日	平成18年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
六尾所在遺跡	鳥取県東伯郡 北栄町 大字 六尾	31367		35° 29' 07"	133° 45' 55"	20050414 ～ 20060324	103㎡	由良川改修事業 (県道・JR 山 陰本線付替)
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		その他・特記事項		
六尾所在遺跡		弥生?	無し	弥生土器 1点		遺構検出せず。		

写真図版

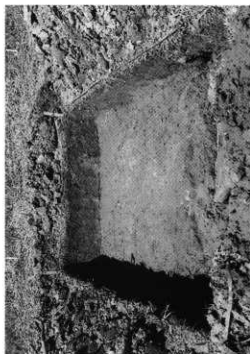


作業風景

図版 1



山陰本線地区掘削前状況



2 Tr. 完掘状況



県道地区 I Tr. 機械掘削風景



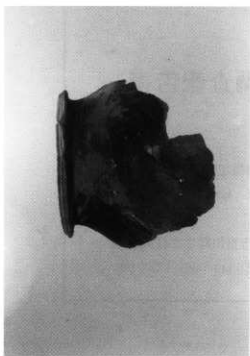
完掘状況



景道地区 II Tr. 掘前前状況



完掘状況



景道地区 I Tr. 出土遺物

北栄町埋蔵文化財調査報告書第1集

平成17年度

町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成18年3月24日

発行者 北栄町教育委員会

〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町土下112

電話 0858(36)5571 fax 0858(36)4595

印刷 (株) 矢積印刷

〒682-0881 鳥取県倉吉市宮川町2丁目36番地

電話 0858(22)5312 fax 0858(23)2188